

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202197		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家 広田		
所在地	長崎県佐世保市広田3丁目9番1号		
自己評価作成日	令和6年1月5日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和6年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・買い物や外食、日々の散歩等施設の外へ出かけることにより、地域との繋がりを保ち、張りのある生活を送れるよう援助している。</p> <p>・スタッフの学びたいという気持ちを大事にして、研修・受験にかかる費用を補助している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、公園、散歩道、病院、学校、終日営業のスーパーや飲食店等が、徒歩圏内にある利便性の高い、平地の住宅地の中にある。理念に込められた家庭的な雰囲気のもとで、安心してゆっくり自分らしく生活できるよう、本人の思いを最優先にした支援の取り組みが行われている。特に外出の頻度が高いことは特記すべきである。食事に関しては、毎日職員の手作りで、食べたい物を話しながら食材の買い物に利用者と同じしたり、調理を手伝う等、食を楽しむ工夫がある。また看取り支援は、協力医と看護職員、職員の連携で、家族の希望があれば行う体制がある。今年度の事例は無いが、職員に看取り支援の経験者が居ることは事業所の強みであり、家族の安心に繋がっている。法人の研修費負担や休暇取得など働きやすい職場環境の中、職員のチームワークも良好である。懐かしさのある家屋で、自由に穏やかな暮らしが確認できる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・リビング・玄関に掲示しており、運営理念を毎朝唱和している。	法人理念「夕暮れ時にも輝く人生」を基に、生活標語を「安心、ゆっくり、自分らしく」と掲げ、訪問者や職員の目につく場所に掲示がある。管理者と職員は、理念を共有し、特に本人らしい暮らし、好きな事、行きたい場所、ゆっくり過ごしたい等の思いに沿ったケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への入会にて地域での出来事などを共有している。散歩などで交流を図っている。	町内会の一員として、散歩や買物中に挨拶を交わし、民生委員などからも地域情報を得たりしながら地域に浸透し、近所住民とは顔なじみである。コロナ禍であっても、感染予防を万全に行い、中学生の職場体験、高校生、短大生の介護実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外や公園への散歩で理解を少しでも深めて頂くように発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、いろいろな意見・希望を取り入れるようにしている。入居者様に関する情報の共有、参加者で意見交換をしている。	年6回、コロナ感染症の状況により、書面会議または対面会議の開催である。民生委員が複数参加しており、事業所の状況、取組、活動実績、研修、事故報告等が議事録から確認できる。ただし、書面会議の場合、議事録で参加委員に質問や意見などの戻りを依頼しているが、意見の戻りがほとんどない。	参加者からの意見を聴取する方法の工夫と、家族へ向けて推進会議を理解してもらえる方法を検討し、更なるサービス向上に、会議を活用することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より密に取ってはいるが、必要に応じて連絡を取っている。生活保護の方が受診の際は病院での手続きがスムーズにできる様に連絡を取っている。	市との連絡は、メールでのやり取りが主であるが、必要に応じ窓口に出向いたり、電話で連絡している。担当課職員とも連絡を取り合い、協力関係を築いている。市主催の研修も受講し、職員間で共有している。包括支援センターとも日頃から連絡を取り合っている。また後見制度の利用者もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き全職員が理解している。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、適正化のための委員会を本部で開き、定期的な研修を行っている。全職員が理解し身体拘束しないケアに努めている。虐待防止委員会の今年度の目標は「タメ口、友達用語は使わない」である。玄関の施錠も夜間のみで、抑圧感のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心になり標語を作成し、毎日唱和している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加する事が出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行い、理解・納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の会話を取り入れ、改善できるように努めている。	入居開始時に、外部相談窓口の説明を行っている。2ヶ月毎にホーム便りを発行している。利用者毎の近況報告欄の記載は、日頃の様子がわかり家族の安心に繋がっている。利用者の意見は日頃の会話から、家族へは訪問時や電話で意見や要望を聞いている。現在は居室内での面会も可能である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフミーティングなどで、職員の意見を聞く機会を設けている。	毎月のスタッフ会議や業務中にも、業務優先順位を変えたり、削除したりと職員の提案や意見を反映させている。普段から職員の意見を聞いており、年に1回、代表と個人面談もある。研修費用の補助もあり有給休暇も取りやすい職場環境である。今年度は、レンジなど家電製品の買い換えなど職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた社外研修への参加によりスキルアップできるよう援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回佐世保地区東部ブロック会議の勉強会に参加し、質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者がアセスメントを取り、要望等をケアプランに反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事などに耳を傾け、希望に沿うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に一番必要としていることを見極め、入居時期や退院時期など一緒に考慮し、早く入居できるように病院や居宅等と相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーション大会やごみ箱折り、洗濯物干し・たたみなど職員と共同作業を行うことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染者が少ない時は玄関先で距離を取り面会していただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや一時帰宅、友人との電話など要望に応じられるようにしている。	盆のお寺参りや法事の参加、墓参り、自宅に月2回の帰宅など、家族と利用者の繋がりや馴染みの場所との関係を大切に支援に取り組んでいる。介護計画に盛り込み、個人記録やアセスメントで共有し、友人等の訪問も、連絡帳で事前に情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声掛けを行い、リビングにて過ごして頂く。外気浴を行ったり、散歩やドライブにて景色を楽しまれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になれば積極的な関係は築いていないが、本人・家族から相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から意向を把握し、買い物同行・散歩支援などケアプランに反映している。意思表示が困難な方は、その方の生活歴、ご家族からの情報を踏まえ、本人主体となれるような関わりに努めている。	利用者の行きたい、食べたい、買い物したい等の思いを把握し、散歩、買い物、ドライブなど柔軟に対応している。雨天時でも本人の希望で普段通りに出掛けている。日常の会話から把握した新情報は、アセスメントシートに特記し共有している。表出困難な場合は、家族や生活歴などからも検討し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族や書類を通じて情報の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、排泄、入浴などで心身状態を把握し、日常の変化を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族から要望を聞き取り、介護計画を作成している。	利用が決まったら暫定プランを作成し、利用者の課題やケアについて情報の収集している。カンファレンスやモニタリング・評価など、職員の意見をもとに、介護計画の見直している。本人や家族の要望をもとに、介護計画を作成し、同意のもと支援を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録、介護計画などで職員も情報を共有し実践している。また、ミーティングで見直しを行い、現状に応じた介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合った柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、民生委員が運営推進会議に出席された際は情報交換を行っている。コロナの感染状況をみて開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは連絡を密に行い、状況によってはスタッフが家族に同行し支援を行っている。	月1回、かかりつけ医の往診がある。皮膚科など専門科への受診は、職員が同行している。受診状況は個人記録に記載し、薬や対応の変更は、連絡帳へ記入し情報共有を行っている。看護師を確保しており、日々の健康管理や緊急対応時の指示を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきを記録し、特変時には看護師へその都度相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師やソーシャルワーカーとの情報交換を行い、スムーズな入退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、家族、主治医、看護師と話し合いをし、方針を決めている。看取りの為のカンファレンスを行い、職員間で情報を共有している。	入居説明時に、重度化及び看取りに関する指針を説明している。また延命措置などの希望も確認している。主治医による診断のもと、看取り期などの状態にあるときは、家族とも話し合いの上、ホームでの対応を検討している。職員は、看取りやターミナルケアについて共有し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナが5類となったため社内・社外の研修に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は年3回行っている。実践的な訓練の為に防災委員が消防局の研修に参加し、煙を発生させた状況での避難誘導や消火器使用を学び、職員へ周知している。	コロナ禍にあり消防立会いは、令和6年度より再開予定である。年3回、日中想定での避難訓練を行っているものの、夜間想定での訓練は確認できない。運営推進会議を通して、民生委員など地域住民に訓練状況を伝えている。現在BCPの作成に取り組んでおり、自然災害時の対応マニュアルについても見直し段階である。	BCP作成については専門家の意見を受け、完成予定である。自然災害等のマニュアルも含め見直しを望ましい。また、夜間想定での訓練実施、及び消防署立会いも併せて期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束研修の際に、スピーチロックについて話し合うなど、無意識に口にしていないか尊厳や人格を守り考える場を設けている	職員は、利用者の尊厳を守るケアに取り組んでいる。利用者とのコミュニケーションでは距離感が近くなるため、特に言葉遣いや接し方には留意している。羞恥心に関して、利用者の誇りを損ねないケアを、職員は検討し実践している。個人情報、事務所で管理し、職員の守秘義務の周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や要望を聞き取り、買物支援や自宅までドライブに出かけるなどの外出支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を叶えられるように時間を考え、その方のペースで支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望があれば美容室へ同行したり、白髪染めをするなど支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや配膳・下膳など、個々の力に応じた役割を持っていただいている。また、家庭菜園で野菜を収穫し、会話する事で食事を楽しんでいただいている。	食材は、利用者と一緒に近所のスーパーで買い物を行っている。家庭的な雰囲気の中で、利用者の嗜好や旬の食材を使った献立を考えている。調理の下準備、配膳の手伝いなど、利用者も家事を楽しんでいる。誕生日や季節行事の特別メニュー、手作りおやつ、外食に出掛けるなど、食事を楽しむ工夫がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜・肉・海藻・大豆食品を中心に栄養バランスを考え、食事量・水分量を記録し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシやスポンジなど口腔状態に応じたケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、日中はトイレでの排泄を支援している。	事業所内には複数のトイレがあり、利用者は居室に近い場所や使い勝手の良いトイレを使用することで、自立に近い排泄を維持している。職員は、排泄チェック表に状況を記録し、現状を把握して検討し、支援に活かしている。職員は、声の掛け方やパッド類の使用方法など検討し、利用者が気持ちよく排泄ができる工夫がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜をできるだけ多く取り入れ、夏場はフルーツ寒天で便秘予防と水分の摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って支援できるよう努めている。散歩後に入浴の希望があった時や、排泄の失敗等があった時はその都度入浴を行っている。	入浴準備は毎日行い、週2、3回を目安に声を掛けていく。浴槽に浸かったり、シャワーや足浴等、利用者の体調を見ながら対応している。拒否があれば無理強いすることなく、改めて声をかけていく。入浴剤を入れ気分転換を図ったり、入浴しながら会話を楽しむなど、心安らぐひと時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息や安眠を支援している。必要に応じて冷暖房を使用し、安眠に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員全員が確認し、薬の変更があった時も情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買物同行や洗濯物干し・たたみ、テーブル拭き等役割を持ってもらい、個々が出来る事で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により散歩や外食、買い物、動植物園、温泉などの外出支援を行っている。	利用者の体調や希望に合わせて、外出支援を行っている。食材購入や手芸材料など、利用者と一緒に近所のショッピングモールへの買い物支援を行っている。季節の花見や近隣のドライブなどから、弁当を持参してのバスハイクなど、さまざまな外出支援を行っており、利用者の楽しみに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物は入居者様と買い物に行き、好きなものを購入して頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族や親しい人に電話をかけたり、取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように、室内の温度・湿度・生活音に気を配っている。共有空間に季節ごとの行事の飾りつけをしたり、庭先の花を玄関やテーブルに飾り、季節を感じて頂くように努めている。	玄関周辺の庭で、花や野菜を育て掃出しの窓から眺めることができる。季節の樹木から四季を感じ、職員と一緒に野菜の皮むきや、好きな編み物などを行ったり、テレビ視聴するなど普段の暮らしが覗える。掃除や換気は職員が定期的に行い、カーテンで光を調節しソファなどで居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを設置し外気浴や会話を楽しんでいただいている。リビングにもソファを置き、居心地のよい空間づくりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やお位牌を居室へ置かれ、いつも一緒に過ごされているような、居心地のよい居室作りに心掛けている。	居室はフローリング仕様で、ベッドと寝具の設置があり、ドアの大きな表札で、自室がわかり易い。好みのシーツや毛布、家族の写真、位牌、テレビ、椅子など使い慣れた物品の持参がある。朝から職員が掃除と換気を行い、清潔保持している。テレビとDVDで好きな映画や音楽を楽しむ利用者もあり、寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋ごとに表札を飾り、案内板や手すりなどで自立した安全な生活が送れるよう工夫している。		